



令和4年11月30日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

令和4年産特産果樹の生産概況

1 気象（五戸：りんご研究所県南果樹部）

（1）積雪深

最深積雪は2月21日の40cm（平年53cm）であった。加えて、2月下旬以降の気温が平年より高く推移したことから、消雪日は平年より6日早い3月13日であった。

（2）気温

1月から2月の気温は概ね平年並から平年よりやや低く推移し、3月以降は6月上旬、8月下旬及び10月を除き、平年並から平年より高く推移した。真夏日は計9日で猛暑日は観測されなかった。

（3）降水量

3月、6月及び8月の降水量が平年より多く推移し、4月から10月までの総降水量は992.5mm（平年比117%）と多かった。特に、8月の総降水量は389.5mm（平年比261%）とかなり多かった。

（4）日照時間

7月中旬、8月上中旬及び10月上旬を除き、平年より多く推移した。特に6月は平年比153%、5月は150%、9月は147%と多く、4月から10月の総日照時間は1,377時間（平年比130%）と多かった。

2 主要果樹の生育経過等

（1）ぶどう

【キャンベル・アーリー（無加温ハウス）】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より4日早い4月10日、三戸（県生育観測）で1日遅い4月5日であった。開花日は、五戸で平年より4日早い5月23日、三戸で2日早い5月12日であった。

着色日は、五戸で平年より2日遅い8月2日、三戸で2日遅い7月19日であった。収穫始めは三戸で平年と同日の8月3日であった。

イ 作柄

10a当たりの房数（以下、房数）が平年をやや上回ったが、平均房重（以下、房重）が平年をやや下回ったことから、10a当たりの収量（以下、収量）は2,956kgと平年をやや下回ると見込まれた。

ウ 病害虫の発生状況

褐斑病が一部園地でやや多かった。

【キャンベル・アーリー（露地）】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より9日早い4月19日、三戸（県生育観測ほ）で4日早い4月21日であった。開花日は、五戸で平年より8日早い6月11日、三戸で7日早い6月6日であった。

着色日は、五戸で平年より1日早い8月19日であった。

イ 作柄

房数は平年をやや下回り、房重が平年を大幅に下回ったことから、収量は1,858kgと平年を大幅に下回ると見込まれた。

ウ 病害虫の発生状況

褐斑病が一部園地でやや多かった。晩腐病がやや多かった。

【スチューベン】

ア 生育ステージ

発芽日は、黒石で平年より3日早い4月25日、弘前（県生育観測ほ）で8日早い4月21日、鶴田（県生育観測ほ）で5日早い4月26日であった。開花日は、黒石で平年より5日早い6月12日、弘前で4日早い6月12日、鶴田で4日早い6月15日であった。

着色日は、黒石で平年より1日早い8月24日、弘前で5日早い8月21日、鶴田で6日早い8月22日であった。収穫始めは、弘前で平年より6日遅い10月7日、鶴田で10日早い9月18日であった。

イ 作柄

房数が平年をやや下回ったが、房重が平年並であったことから、収量は1,919kgと平年をやや下回ると見込まれた。

ウ 病害虫の発生状況

灰色かび病が一部園地でやや多かった。晩腐病がやや多かった。ベト病の葉での発生が一部地域でやや多かった。

(2) おうとう

【佐藤錦】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より9日早い4月14日、弘前（県生育観測ほ）で6日早い4月17日、南部町（県生育観測ほ）で5日早い4月13日であった。開花日は、五戸で平年より8日早い4月23日、弘前で7日早い4月24日、南部町で5日早い4月22日であった。

着色日は、五戸で平年より10日早い6月4日、弘前で3日早い6月9日、南部町で5日早い6月5日であった。収穫始めは、弘前で平年より2日遅い6月27日、南部町で平年より1日早い6月20日であった。

イ 着果状況

一花束状短果枝当たりの着果数は、県南地域が1.60果（平年1.88果）、津軽地域が0.87果（平年2.09果）であった。

開花期間中の低温や強風等の影響による結実不良のため、着果数は平年より少なかった。

ウ 病害虫の発生状況

灰星病が一部地域でやや多かった。褐色せん孔病が一部園地でやや多かった。

エ 生理障害の発生状況

5月下旬以降の降雨による土壌水分の急激な上昇に加え、ヤマセにより湿度が高まったため、裂果の発生が見られた。

【ジュノハート】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より10日早い4月14日であった。開花日は、五戸で平年より9日早い4月24日であった。

着色日は、五戸で平年より9日早い6月3日であった。

イ 着果状況

一花束状短果枝当たりの着果数は、県南地域が1.11果（前年0.91果）に対し、津軽地域が1.23果（前年2.29果）であった。

開花期間中の低温や強風等の影響による結実不良のため、津軽地域の着果数は前年より少なかった。

ウ 病害虫の発生状況

全般に少なかった。

エ 生理障害の発生状況

5月下旬以降の降雨による土壌水分の急激な上昇に加え、ヤマセにより湿度が高まったため、裂果の発生が見られた。

(3) もも

【川中島白桃】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より4日早い4月12日、黒石で7日早い4月13日、平川（県生育観測）で4日早い4月13日であった。開花日は、五戸で10日早い4月25日、黒石で8日早い4月26日、平川で7日早い4月24日であった。

収穫始めは、平川で平年より1日遅い9月2日であった。

イ 果実肥大（横径）

最終調査時の横径は、五戸が8月20日時点で8.6cm（平年比126%）、平川が8月21日時点で8.2cm（平年比111%）であった。

ウ 病害虫の発生状況

せん孔細菌病がやや多かった。うどんこ病が散見された。ハダニ類が一部園地でやや多かった。

(4) 西洋なし

【ゼネラル・レクラーク】

ア 生育ステージ

発芽日は、五戸で平年より1日早い4月10日、南部町（県生育観測）で平年並の4月7日であった。開花日は、五戸で平年より10日早い4月25日、南部町で7日早い4月26日であった。

収穫始めは、五戸で平年より7日早い9月16日、南部町で9日早い9月9日であった。

イ 果実肥大（横径）

五戸における最終調査時（9月20日）の横径は、9.4cm（平年比107%）であった。

ウ 果実品質

五戸の収穫時（9月20日）における果実品質は、表面色は平年並、地色、硬度、酸度はほぼ平年並、ヨードでんぷん反応は平年より低く、糖度は平年より高かった。

エ 病害虫の発生状況

輪紋病が樹上果及び追熟果とも散見された。

(5) うめ・あんず

【うめ（豊後）・あんず（八助）】

ア 生育ステージ

五戸では、発芽日は、うめ（豊後）が平年より2日早い3月17日、あんず（八助）が1日早い4月2日であった。開花日は、うめが平年より10日早い4月12日、あんずが9日早い4月14日であった。

イ 病害虫の発生状況

全般に少なかった。

※令和5年特産果樹生産情報第1号は、令和5年4月上旬に発表予定。